

月報 白樺

ALPINE CLUB / WHITEBIRCH NAGANO

11月の活動予定

11月2日(火) 第一例会

11月3日(祝) 坊主岳

CL:

11月13日(土) 十二ヶ岳

CL:

11月20日 or 21日(土 or 日) 茂来山

CL:

12月の活動予定

12月7日(火) 第一例会

12月4日 or 5日(土 or 日) 傘山

CL:

12月18日 or 19日(土 or 日) 戸隠山

CL:

雪上訓練

CL:

活動報告

10月3日(日)八海山

参加者:

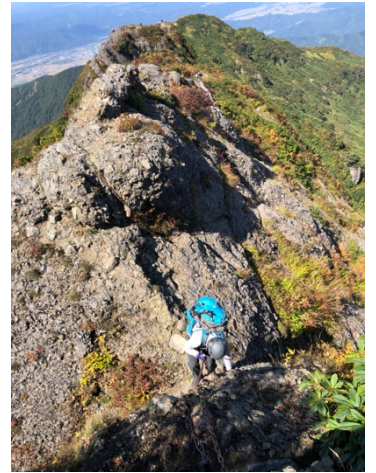
新型コロナ緊急事態宣言解除後、初の日曜日。私にとっては半年ぶりの八海山登山です。ロープウェイ使用とはいえ無事登れるか一抹の不安をかかえての参加でした。

お天気も良く登りはなんとか順調にタイムリミットと決めていた12時半頃には、八ッ峰の岩峰を超え大日岳にも登ることができた。ナナカマドの実も赤く色づき青



空に映え、眼下には南魚沼平野が黄金色にかがやいていた。下山は迂回ルートを下ったが傾斜もきつく滑りやすく気の抜けない下りが続いた。半年のブランクで太ももの筋力が落ち、つりそうになるのを、だましだましの下山であった。

新型コロナが長期化して変わっていく日常の中で徐々に山のすばらしさを感じ、ホワイトバーチの岳友と、こうして一緒に山に登れる幸せを感じた1日でした。



長野 5:30—7:30 八海山ロープウェイP着 8:30 ロープウェイ始発 山頂駅 8:45—女人堂 9:45—薬師岳 10:40—千本槍小屋 10:50—大日岳 12:30—13:40 千本槍小屋 14:00—女人堂 14:40—山頂駅 15:35—長野 18:30

10月16日(土) 天狗山ダイレクト①

天気:晴れ

参加者:

これほどまでに充実し大きな達成感を味わった1日はいつ以来だったでしょう。

「物見練習の集大成に天狗山へ」と神保さんから発せられた言葉に天狗



山にクライミングの岩が? 調べてみると、山岳ガイドさんが開拓したという天狗山ダイレクト。まず不安が先に…。神保さんが下見に行かれ、書かれたトポを頭に入れておかないと…。何度も目を通し想像し、もうやるのみ!!

馬越(まごい)峠から天狗山ピークに向かう登山道を進み左に折れ1600mまで下る。目印となるケルンを右に向かうと取付き。

岩稜を目の前にして「いよいよ始まる! 慎重に! 確実に!」と自分の中に言いかけ、ピークでのやり遂げた姿を思い描く。ハーネス装着・ロープの結びをお互いに確認しあう。緊張をほぐすためにストレッチ、そして大きく息をフー。

1P 8:00 登攀開始。トップの がグイグイと登っていく。体の動き、ホールド、スタンス(フットホールド)の取り方をしっかりと見る。レベルが低いという目の前の岩を見ると、核心部の2P・7Pはいったいどんな壁なのか…。小林弘明さん、 続く。先行パーティーは3人。後行パーティーは4人。私、 は50mロープで繋がり、

が繋がれている。先行の と私の間に(ないものと思う)補助ロープがあるのは気持ちの上で安心感がある。苔が着き滑りやすそう。気を着けながらスタンスをとる。

2P 少し左から入って岩から張り出た松の木へ。トポに書かれていたホールドに取る時は注意しなければならないという松の木。上からも声がかかる「頼るのは根元、幹は危ない、松の木にザックが引っかかるからよけて」まさしく幹に力を入れたら抜け落ちそうな松の木。岩は脆く確認しながら登る。

3P リード。30mのところを50mロープで3人が結ばれているということはロープワークをどのようにしたら良いか…と物見練習時に話し合った箇所でもある。途中から下井さんと横澤さんを同時にビレイ。



のロープも「いっぱい」となり が途中でビレイされていた。

4P しっかりした木の切り口に足を置く。いったいどのくらいの人を足に乗せたの

だろう、頼りになる木だ。後続のパーティーと一緒にいる。岩稜を登ると少しなだらかに。ここも30m。短い岩稜を上ったところでロープを解き15分ほど歩く。先行パーティーが赤布を着けて行ってくれたので安心。1枚目を取り外し、しばらく進むと の姿が。様子を見にきてくださった。二重の安心。 の後についてカラ松林のフカフカした中を歩き7人合流。軽くお腹に入れる。気が張っているせいかお腹も空いているような、空いていないような、でも入れておかないと…。

5P チムニー(通称「門」というらしい)右の壁を登り左に移る。神保さんの長い足がグッと伸びて左へ。「どうしよう…移れるかな…」。裕子さんが難なく通化。脆い岩もあり慎重に。心配していた左側への移動もその場に行くとはとかなる。

6P 風が強くなってきた。発する声が風に飛ばされてしまうのか聞き取れない時がある。出会った2組のパーティーはトランシーバーでやり取りをしていた。とても明確で安全かと思った。

5分ほど岩稜を歩くと三段岩壁と言われる大きな壁が目の前に現れる。天狗山へ向かう登山道から見えた垂直に近い岩だ。雲が低くなってきた。ちょっと肌寒くも。ピークまで3時間くらいだろうか、もうしばらく穏やかでいて欲しいと思う。

7P 1:00 核心部。 の動きを確認。1mほど登ったら右の木近くの岩の出っ張りにスタンスを取って…。続く

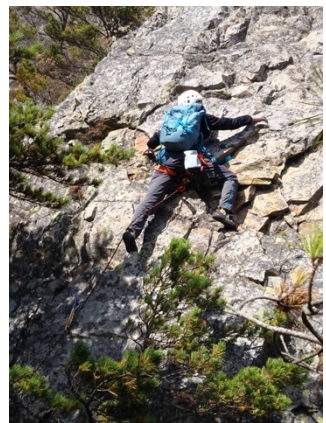
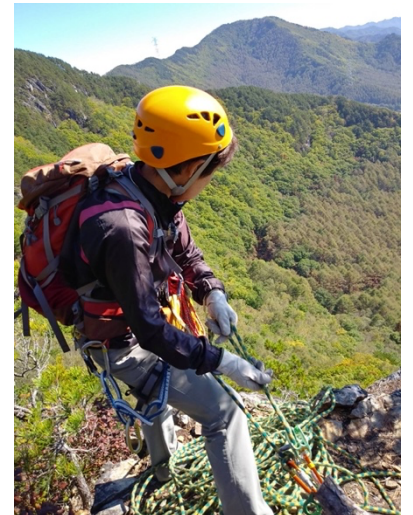
。ロープの半分が過ぎるとロープがズルズルと下りてくる。「どうして?」(帰りに判明。このようなロープワークがあったのだ)この時点での後行パーティー4人の判断は、50mロープでは足りないであろうから途中でワンピッチ作ることにした。 がボルトにクイックドローをセットして下さっている。A0で安全に登ることも可能。

8P 出だしのスラブ中間のボルトにクイックドロー有。トポにあった右の岩の間に手を入れホールドを探す。通過しホッ。あと短いひと登り。しかし、とても剥がれやすく頼りにすることはできない。用心しながら上がるとそこは安全地帯。最後のビレイ体制に。

垂直のような岩から顔を出す

スマホが待ち構える。向かいの山と谷を背に素晴らしいショット!!

9P お二人が張ってくださったフィックスロープを



進む。今までの緊張がほぐれる。林の中に入りクライミングシューズを履き替えると足もホッとしている。

4:00 天狗山山頂。「ヤッター!! みんなでやったよー!!」「神保さん、ありがとう!!」歓喜の声。感謝の声。達成感と感激、チームメンバーへの感謝、涙腺もゆるむ。いつもなら山頂からまわりを見渡し「浅間山が…」と声を上げるのにまったく目が行かず。登攀中、暗くなりかけた雲もどこかに消え、風も弱まり、山頂は7人の感動の場に。祠に手をあわせて下山。朝登山道から見た核心部が全く違った気持ちで見える。

クライミングの基礎用語から始まり、物見でのビレイ技術、ロープワーク等を の指導の下、三尾会長さん、小野さんも早朝から指導して下さりこの日を迎えることが出来ました。そして同じ目標に向かって取り組む仲間がいたからこそ出来たこと。感謝の気持ちでいっぱいです。

下山時、入会以来物見岩での練習で指導し、見守って下さり、この日のように「本番」やバリエーションルートを経験させてくださった先輩の方々の思い浮かべていました。

もうクライミングは終わりにしよう決めていた私が、ブランクを感じながらも途中から物見練習に向かう気持ちになったのは から掛けられた言葉からでした。あの時の言葉があったから今日を迎えることが出来ました。

WBNの皆さんに支えられてです。本当に、ありがとうございました。



10月16日(土) 天狗山ダイレクト②

駐車した馬越峠から登山道を進み尾根に出る。ダイレクトの取り付きは、登山道から外れトレースをたどりジオグラフィカを使い現在位置(標高)も確かめながら、一旦降る。ダイレクトの取り付きは樹林帯の中、岩が少し苔に覆われている。いよいよ登攀が始まる。練習はしてきたが不安が先立つ。登攀は7人の2パーティー。1パーティー()、2パーティー()。

•1P 30m PG5.3 リード

樹林帯の中で湿っぽい出だし、途中の木で中間支点をとり後は岩稜。

•2P 18m PG5.5~5.7 リード

カムで中間支点を確保、上部の小ハングを左回りで細く根が浮いているような松の木の根元を手掛かりに登る。

•3P 30m 岩稜 リード

途中の木で中間支点

•4P 30m PG5.4 リード

出だし左側に小さいがホールド多くあり、そこを登り切れれば岩稜。しばらく岩稜歩き。

•5P 15m PG5.5~5.7 リード

天狗山ダイレクトの「門」と呼ばれている壁をチムニーの右側に中間支点を取り、途中から凹角の左壁に移動するのに苦労した。一番きつかった。

•6P 15m PG5.5 リード

右側の順層斜面を登り狭い岩稜へ。しばらく岩稜歩き。

•7P 25m PG5.7 リード神保さん

核心部の「三段岸壁」に取り付く。ハンガーボルトで中間支点。右側岸壁の小さいステップに足を置ければ、左側にホールド多くあり。テラスに出て松の木で支点構築。

•8P 20m PG5.6 リード

出だしスラブ状。ハンガーボルトで中間支点。右側岸壁沿いの岩の中のいくつかのホールドを頼りに登る。最後の狭い凹角のもろい岩に気を付けながら登り切ると核心部終了。

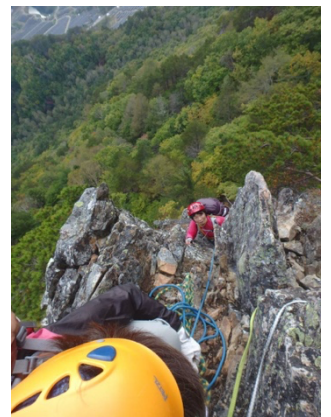
•9P 12m 岩稜 リード

岩稜を進むと樹林帯に入り登攀終了。※ PG、距離は神保さんトポより

無事にここまで来れた事に安堵感。

樹林帯の中のトレースを進むと山頂。みなさんの充実感にみなぎった笑顔が忘れられません。自分とは言うも登攀出来たことが信じられず放心状態で足が地に着いていません。達成感や満足感よりも技術面の不足などを感じながら、それでも感謝の気持ちで一杯でした。

はじめ、物見岩の早朝練習でご指導していただいた ありがとうございます。今日のパーティー参加のみなさんの協力があったて登攀出来たことを強く感じた次第です。本当に記憶に残る初めてのバリエーションルートでした。



長野(4:00) 馬越峠(6:10) 登山道からの分岐点(6:55) タイレクト取り付き(7:20) 登攀終了(15:30) 天狗山山頂(16:00) 馬越峠(16:50)。